

	七松小学校 学校だより	令和7年度 7月号 尼崎市立七松小学校 校長 高島 洋
---	--------------------------	--



☆ ホームページアドレス <https://www.ama-net.ed.jp/school/E31/>

「当たり前」を考える



今年は遅めの梅雨入りになり、梅雨に入った途端、雨がたくさん降るかと思っていれば連日の真夏日です。やはりここ数年、異常気象という言葉が「当たり前」のように言われるようになりました。改めて、水分補給がしっかりできるように水筒のご準備よろしくお願いいたします。

「当たり前」という言葉には「①そうあるべきこと。そうすべきこと。②普通のこと。ありふれていること。」(大辞泉より)の二つの意味があります。言い換えると、当然と普通となります。学校では「当たり前のことを当たり前になろう」とよく言います。「当然のことを普通にしてほしい」という願いです。

6月の生活目標だった「ろうかは歩こう」もこのような願いをもと、教員で話し合っただけで決まりました。学校において、このような決まり事を決めるのも「当たり前」のことです。それは教育基本法、第6条に、「教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない。」と明記されているからです。同時に、教育基本法の第10条には「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。」とも記されています。児童の健やかな成長を見守ることが教育の基本だとすると、学校だけではなく保護者の皆様のご協力が欠かせません。今後ともご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今月は、いよいよ夏休みが始まります。早速ご家庭でご協力いただくこととなります。ご家庭でも「当たり前」を大切にされているかと思いますが、是非、夏休みの間、お子様が「当たり前」のことをできたら、ほめてあげてほしいと思います。「当たり前」の反対語は「有り難し」です。「当たり前」のことだから普段は「ありがとう」となっていくかもしれません。ただ、当たり前の日常にこそ本来は感謝すべきではないでしょうか。それは子どもも大人も同じです。子どもたちには、ご家庭で過ごすことが多くなる夏休みに、日常的にご家庭で保護者の皆様が「当たり前」にしてくださっていることに是非、感謝の気持ちを持ってもらいたいと思っています。大人も子どもたちが「当たり前」にしていることを「今日もできたね」みたいに声掛けをするのはどうでしょうか。

学校は2学期の始業式に学校に登校する児童に「よく来たね」と感謝の気持ちを持って待っています。元気に登校できるようご支援のほどよろしくお願いいたします。